

2019年（平成31年）

（1）ア．発展途上国の輸出品は農林水産物のような一次産品が多く、需要が価格に対して弾力的であるため、需要が変動すると価格が大きく変動する傾向がある。⇒「非弾力的」

★イ．通勤新線が開通することで利便性が高まり、その地域の宅地需要が拡大すると、供給曲線は右にシフトする。⇒「需要曲線」は右にシフトする。

★ウ．価格の低下によりある財への需要が増加することは、需要曲線が右にシフトすることで表わされる。⇒「需要曲線上の（右下への）動きにより」

★エ．供給が価格に対して弾力的であるとき、消費税として10%が課税されても消費者が支払う価格が10%までは上昇しないのは、価格上昇によって需要と供給が減少するからである。→○

（2）ア．必需品の需要曲線の傾きは急に、ぜいたく品の需要曲線の傾きはなだらかになる傾向がある。→○

イ．豊作貧乏とは、価格に対して弾力的な需要曲線の場合に、生産量の増加に伴い価格が大幅に下がることにより生産者の収入がかえって減少する現象のことである。⇒「非弾力的」

ウ．需要曲線とは、内生変数をすべて一定の値とにおいて、外生変数である価格と需要量の間の関係を描いたものである。→「内生変数は価格Pと需要量X、外生変数は一定」

★エ．消費者余剰は、各消費者の支払額を金銭価値という共通の指標で足し合わせたものとなっている。⇒「（各消費者の）効用」

（3）ア．限界費用は、生産量の増加に伴って生じる費用の増加額であり、これは可変費用からは読み取れるが、総費用からは読み取れない。⇒「総費用＝変動費（可変費用）＋固定費であり、限界費用＝生産量の増加に伴う費用の増加分であることから、総費用から限界費用は読み取れる」

イ．技術革新により供給量が増加することは、供給曲線の下方へのシフトとして表わされる。★ウ．固定費用がない場合、企業の利潤の額は生産者余剰よりも常に大きい。⇒「固定費用がない場合、生産者余剰＝利潤となる」

エ．供給の価格弾力性が小さい場合、供給曲線の傾きはなだらかになる。⇒「非弾力的＝傾きは急」

（4）ア．GDPは、支出面からみたGDP、生産面からみたGDP、分配面からみたGDPの3つの異なった表記の仕方ができる。→○

イ．日本のGNPには、日本国内で行われるすべての生産活動が含まれるため、日本国内の外資系企業の生産活動も含まれる。⇒「GNPは国民総生産であり、日本居住者以外の活動は含まれない」

ウ．外資系企業の日本国内の生産のなかで、配当や技術料などで海外の親会社に支払われる部分については、日本のGDPに算入される。→○

エ．GDPについては、次のような恒等的関係が成り立っている。 $GDP = (\text{消費} + \text{投資} + \text{政府支出}) + (\text{輸入} - \text{輸出})$ ⇒「輸出－輸入」

（5）ア．マクロ経済を分析する際に用いられるM2と呼ばれる貨幣量の指標は、現金残高と当座預金や普通預金等の要
求払い預金の残高を足し合わせたものである。⇒「M2は定期性預金等も含めたM1よりも広範囲な貨幣」

★イ．マネーストックとは、市中に流通している現金の総額と、銀行が中央銀行に預けている預金準備の額の合計である。→「M＝経済に流通しているお金＝現金＋（民間）銀行の中央銀行への預け金＝支払い準備」

★ウ．ケインジアン考え方は「官僚聡明論」的色彩が強く、新古典派の考え方は「市場万能」的な色彩が強い。→○

★エ．金利が大きく動く場合には金融政策は有効に働くが、財政政策はクラウディング・アウト効果の弊害が大きくなりやすい。→○

2018年（平成30年）

（1）ア．価格が高すぎると、供給のほうが需要よりも多くなる。この場合、価格が下がり、供給が減少し需要が増加して調整が行われる。→○

★★イ．消費税が課された場合、**需要曲線の傾きが大きく、供給曲線の傾きが小さい**ほど、消費税が消費者価格に**転嫁される割合が小さく**なる。⇒「Sの傾き大、Dの傾き小 → 価格への転嫁割合が**大きく**なる」

★ウ．**原材料の価格が下がった**ことで、クレープの価格が下がった場合、クレープの**需要曲線は左にシフト**する。⇒「**供給曲線が右にシフト**（＝供給が増加する）」

エ．消費者余剰とは、支払う意思はあるが支払わないで済んだという意味での、需要行動を通じた消費者の利益を表したものである。→○

（2）★ア．総支出額は、価格に需要量をかけてことによって求めることができる。→○

★イ．需要の**価格弾力性が高い**場合、供給量が減少すると収入はかえって増える。⇒「必需品など需要価格が**非弾力的**ならば、供給量が減少しても価格が上がりその分だけ収入が増える」

ウ．映画料金が大人と子供で異なるなど、需要曲線の違いを踏まえた価格設定を価格差別という。→○

★エ．合理的な消費者は**限界効用が価格を上回る**直前まで購入を続けると考えられ、その状態において消費者余剰は最大となる。⇒**下回る**（限界効用（＝満足度） < 価格ならば価格分の価値はない）

（3）ア．「囚人のディレンマ」では、個々のプレイヤーが利己的に行動した結果、互いに相手に悪影響を及ぼし、かえって全体が損をするような結果になる。→○

イ．「バトル・オブ・セックス」は、少なくとも2つのナッシュ均衡を持っている。→○

ウ．「チキンゲーム」は両者の勝敗を決めるゲームの1種であり、**ゼロサムゲーム**の1種である。⇒「**ノンゼロサムゲーム**」

エ．**優越戦略**とは、あらかじめ自分が行動を起こすことで、自分や相手の利害関係を変えてしまい、それにより結果を自分に有利にもっていかうとする戦略のことである。⇒**コミットメント**

（4）★ア．金利を引き下げる金融政策を行うと、一般的には、投資・消費が刺激されて乗数効果が働き、為替レートが自国通貨安となるため貿易黒字が拡大する。→○

★イ．政府が財政支出を増大させた場合のクラウディング・アウト効果を緩和するためには、中央銀行による**売り**オペレーションを通じて金利を低下させることが有効である。→「(債券)の**買い**オペ → マネーストックが増加 → 金利が低下」

★ウ．貨幣需要の利子弾力性が小さく、投資の利子弾力性が大きいほどクラウディング・アウト効果は大きくなる。→○（金利が上がり、民間投資の抑制が起きる。貨幣需要をS（需要）・投資をD（供給）とし、「豊作貧乏」・「間接税導入による消費者化カウへの転嫁割合大」と同じ理屈）

★エ．「流動性の罠」の状態では、貨幣需要曲線がほとんど水平になり、金融政策・**財政政策**の効果がほとんどきかなくなる。⇒「貨幣量が変化しても金利がこれ以上下らないので、金融政策の意味がなくなる状態。財政支出の増大により利率の上昇が小さいため**財政政策の効果は大きくなる**。」

（5）ア．付加価値とは、それぞれの産業で生産された正味の価値のことで、通常は、生産額から原材料費や**人件費**などの費用を引いたものとして計算される。⇒「**人件費は付加価値の要素**である。付加価値割参照」

イ．GDPは、経済の生産規模や所得規模を示す指標である。→○

ウ．日本のように海外に多くの資産を持っている国では、通常、GDPよりもGNPのほうが大きくなる。→○

エ．マネタリー・ベース、ベース・マネー、**マネーストック**は、いずれも同じものを指している。⇒「**ハイパワード・マネー**：現金＋中央銀行預け金（日銀が供給する通貨の総量、日銀のB/S負債総額） **マネーストック**：現金＋預金（日銀を含む経済に流通している通貨の総量、M1・M2など）」

2017年（平成29年）

(1) ★ア. 貨幣保有動機の一つの「**購買動機**」とは、財やサービスを購入するために貨幣が必要となるため、ある程度の貨幣を手元に置いておこうという動機をいう。⇒**取引動機**（「購買動機」という言葉はない）

イ. 貨幣保有動機の一つの「**予備的動機**」とは、いざという時のために貨幣を手元に置いておこうという動機をいう。→○

ウ. 貨幣保有動機の一つの「**資産保有動機**」とは、**投機的資産**としての貨幣を資産の一部として保有しようという動機をいう。⇒「**安全資産**」

エ. 貨幣保有動機と利子率とは密接に関連する。一般に利子率が高くなるほど、人々は貨幣保有を少なくすると考えられる。→○

(2) ★ア. 新古典派の考え方は、**市場万能的**な色彩が強く、政府が市場をコントロールしようとしても、結局は市場を混乱させるだけというものである。→○

イ. ケインジアンの考え方は、**市場・国民**によって経済のコントロールは可能であるという考え方が出ている。⇒「**賢明な官僚・政府**」

ウ. フィリップスは、失業率と**ハイパワード・マネー**に一定の関係があることを主張した。⇒「**インフレ率（物価上昇率）**」

★エ. フリードマンは、フィリップス曲線の考え方は長期的には成立しないとし、フリードマンに影響を受けた経済学者たちは、**新古典派**の考え方に疑問を提示した。⇒「**ケインジアン**」

(3) ★ア. 総費用は可変費用と固定費用に分けることができ、**限界費用は可変費用を生産量で割る**ことによって求めることができる。⇒「**総費用の増加分を数量の増加分で割る**」

イ. 供給曲線は価格と供給量という内生変数の関係性を表しており、それ以外の外生変数が変化した場合は供給曲線がシフトすることになる。→○

★ウ. 固定費用がないケースでは、生産者余剰はその企業の利潤の額に等しくなる。→○

★エ. 市場が完全競争下にある場合、供給者側に価格を設定する**裁量がある**。⇒「**裁量がない、プライス・テイカー、例：国内企業の顧問税理士業**」

(4) ア. 日本の**GDP**には、外資系企業による日本国内の生産のうち、海外の親会社に支払われる配当や技術料は**含まれない**。⇒「**GDP=国内総生産、国内で行われる全ての生産活動が含まれる**」

イ. 日本のように海外に多くの資産を持っている国では、**GNPよりもGDPの方が大きく**なる。⇒「日本では **GNP > GDP**」

★ウ. 物価が上がっても、生産量が変わらなければ**名目GDPは変化しない**。⇒「**実質GDPは変化しない。名目GDPは生産量に変化がなくても物価が上がれば増加する**」

★エ. 一般に、いろいろな産業の付加価値の和であるGDPは、いろいろな産業の生産額を足し合わせたものよりも小さい。→○（付加価値の和=GDP。中間財はGDPに含まれない）

(5) ★ア. 流動性の罫の状況では、わずかな金利低下に対して、債券から貨幣への乗り換えが起こり、貨幣需要曲線は水平に近くなる。→○

イ. クラウディング・アウト効果とは、**金融政策**で景気を刺激しようとしたとき、金利が上がって消費や投資が抑えられてしまう現象のことである。⇒「**財政政策**」

★ウ. 貨幣需要の**利子弾力性が小さい**ほど、**金融政策の効果は小さく**なり、**財政政策の効果は大きくなる**。⇒「**Dが非弾力的ならば金利のブレ幅が大きくなるため、金融政策の効果が大きくなる。金大、財小**」

エ. 財政政策とは、政府の支出額や税を調整することでマクロ経済に影響を及ぼそうとするものである。→○

2016年（平成28年）

（1）ア．供給主体の数が少ない場合、供給者はプライス・テイカーとなる。⇒「**完全競争化**」

★イ．需要と供給の価格弾力性が大きいほど、間接税の導入による余剰の損失は大きくなる。→○（間接税の導入が価格に転嫁されにくいいため、税収が少なくなり余剰損失が大きくなる）

ウ．需要の価格弾力性の高い農産物は、いわゆる豊作貧乏の状態に陥りやすい。→「**非弾力的**」

★エ．供給の価格弾力性が大きいほど、需要の価格弾力性が小さいほど、消費税の消費者価格への転嫁は大きくなる。→○

（2）ア．ハイパワード・マネー増減のチャンネルは基本的には三つある。第一は中央銀行による市中の金融機関への貸し出し、第二は公開市場操作などによる市中との債券の売買、そして第三は外国為替市場における中央銀行による介入である。

→○

イ．信用乗数が一定であれば、マネーストックはハイパワード・マネーに連動して増減する。→○

ウ．**法定預金準備率を低く**設定すれば、それだけ**信用乗数の値は小さく**なる。→「**大きくなる**。信用乗数の分母が小さくなるため」

★エ．労働、**投資**、土地などの生産要素の成長率にその所得シェアをかけたものを足し合わせることによって、その国の経済成長率を求めることができる。→「**資本**」

（3）★ア．需要曲線上の点において、価格と数量の積はその価格における**消費者余剰に等しい**。⇒「**価格×数量＝その価格における支出額**」

★イ．平均費用が逓増的であるとき、限界費用は平均費用より大きい。→○

★ウ．固定費用が増加すると、平均費用と**限界費用**が増加する。⇒「**固定費用が増加しても限界費用は変わらない**」

エ．競争にさらされていない企業に生じる資源配分のロスをX非効率という。→○

（4）★ア．貨幣需要の利子弾力性が小さいほど、金融政策は有効に働くが、財政政策はクラウディング・アウト効果の弊害が大きくなりやすい。→○

★イ．1970年代の石油ショックで見られたように、**短期的な需要は価格に弾力的**だが、**長期的な需要は非弾力的**になる。→「**短期的には非弾力的、長期的には弾力的**」

★ウ．投資の利子弾力性が大きいほど、クラウディング・アウト効果は強くなる。→○（貨幣需要をD、投資をSと考える）

★エ．金利を下げるような金融政策を行うと、一般的には、投資は刺激されるが、為替レートは自国通貨**高**となり**輸出が減少**する。⇒「**自国通貨安**となり**輸出が増加**する」

（5）ア．ゲーム理論における戦略的行動とは、自分の行動が相手にどのような影響を及ぼすのかということを読みながら、自分の行動を決めることである。→○

イ．繰り返しゲームにおいては、参加者間の**直接的な意思疎通がなければ**協調関係が発生することはない。⇒「**直接的な意思疎通が無くても協調関係が発生することはある**」

ウ．ゲーム参加者の利得の総和が常にゼロとなるゲームをゼロサムゲームといい、参加者が2人のゼロサムゲームにおいては一方が勝者となればもう一方は敗者となる。→○

エ．コミットメントをすることによって競合相手の戦意を削ぐ戦略は、**寡占市場においてのみ**観察される。→「**寡占市場に限らない**」

2015年（平成27年）

（1）★ア．原材料価格の高騰は、供給曲線の左方へのシフトで表される。→○（価格が上がり供給量が下がる）

イ．供給の価格弾力性が小さいほど、供給曲線の傾きはなだらかになる。→「非弾力的＝傾きが急」

★ウ．地価が上昇した結果、地主が土地を売り惜しむと、宅地供給がかえって減少することがあるが、この状況は垂直な供給曲線として表される。→「右下がりの供給曲線」

エ．奢侈品的な性格が強いものは、需要が価格に対して弾力的であり、需要曲線の傾きは急になると考えられる。→「弾力的＝傾きはなだらか」

（2）★ア．預金準備率が一定のとき、現金性向が大きくなるほど信用乗数は大きくなる。→「信用乗数の分子の α も分母の α も増加する」

★イ．中央銀行が国債の売りオペレーションを行うとハイパワード・マネーは減少する。→○

ウ．流動性の罫の下では、貨幣需要曲線は水平に近くなっている。→○

エ．貨幣需要の利子弾力性が小さいほど、金融政策の効果は小さくなる。→「Sが非弾力的→金利のブレ幅が大きい→金融政策の効果も大きい」

（3）ア．一般に囚人のディレンマにおいて、それぞれのプレイヤーの戦略は優越戦略とよばれる性質を持っている。→○

イ．バトル・オブ・セックスは、チキンゲームと異なり、ゲームの当事者二人に協調のメリットはない。⇒ある（デートなので）

ウ．高速道路の混雑現象が囚人のディレンマと似ている点として、「高速道路の利用者自身が、高速道路を利用することで他の人に及ぼす影響を考慮せず、利己的に行動することで、結果的に混雑という望ましくない結果に陥る」という点がある。→○

エ．チキンゲームは少なくとも2つのナッシュ均衡を持っており、常にゼロサムゲームとなる。⇒「チキンゲームはノンゼロサムゲーム」

（4）ア．GDPの水準が、内需（消費+投資+政府支出）の額より大きい国では、財・サービスの輸出は財・サービスの輸入よりも小さくなっている。⇒ $Y=C+I+G+$ （輸出-輸入）

イ．外資系企業の日本国内の生産のなかで、配当や技術料などで海外の親会社に支払われる部分についても、日本のGDPに算入される。⇒GNPに含まれるのは日本居住者の生産のみ

ウ．生産が全く拡大しなくても、物価が上がれば実質GDPは増大する。⇒名目GDP

エ．付加価値とは、それぞれの産業でネットに生産された価値のことで、通常は、生産額から原料や材料などの費用を引いたものとして計算される。→○

（5）ア．金融政策とは、金融市場や外国為替市場に働きかけて、金利や為替レートを通じてマクロ経済に影響を及ぼそうとする政策である。→○

イ．売りオペレーションを行うと、市中に流通している貨幣量が増大し、それによって利子率が低下する。利子率が低下したことによって投資が刺激され、乗数メカニズムによって経済全体の生産や所得が増加する。⇒「金融緩和＝買いオペ→利子率低下→投資増大→生産所得増加」

ウ．クラウドニング・アウト効果が強くなる要素として、①所得増が貨幣需要に及ぼす影響が大きい場合、②貨幣需要の利子率弾力性が小さい場合、③投資の利子率弾力性が大きい場合、がある。→○

エ．フィリップス曲線とは、失業率と利子率の間に見られる関係をグラフにしたものである。⇒インフレ率（物価上昇率）

2014年（平成26年）

（1）ア．GDPの水準が内需（消費＋投資＋政府支出）の額よりも大きい国では、財・サービスの輸出は輸入よりも大きくなっている。→○

★イ．GDPを生産面から見ると、各産業の付加価値の合計がGDPであることになるが、このとき中間財の生産による付加価値は含まれない。⇒「中間財の生産も付加価値に含まれる」

ウ．物価が上がっても、生産量が変わらなければ実質GDPは変化しない。→○

エ．GDPを支出面から見ると、企業が生産したが売れ残った在庫は消費の一部として含まれている。⇒「投資」

（2）ア．豊作貧乏は、需要の価格弾力性が大きい産品で起こりやすい現象である。⇒「非弾力的でDの傾きが急」

★イ．原料の価格が上がることによる価格上昇は、供給曲線に沿った右上への移動で表される。⇒「供給曲線の上方へのシフト」（価格Pが上がると均衡点における供給量が減る）

ウ．年によって需要が大きく変化しないものとするとき、各年の価格と供給量をプロットすることで需要曲線のおよその形が読み取れる。→○

エ．農家がとれすぎた野菜の一部を破棄するという行動は、完全競争の前提の下で各農家が利益を最大化するために合理的なものといえる。⇒完全競争下では各農家の行動で価格は変わらないため、収穫分をすべて供給することが利益の最大化となる。

（3）★ア．過大生産の市場では、生産者の限界費用が消費者の限界的評価よりも小さくなっている。⇒生産者の限界費用 > 消費者の限界的評価（＝新たな1杯のために支払ってもよい金額）

★イ．限界費用は、総費用曲線と原点を結んだ直線の傾きに等しい。⇒平均費用

★ウ．企業の限界収入線と限界費用線で囲まれた領域を生産者余剰と呼ぶ。→○

エ．生産者余剰は、常にその企業の利潤の額に等しくなる。⇒固定費がある場合は異なる。

（4）ア．「囚人のディレンマ」では、個々のプレイヤーが協調して行動した結果、互いに相手に悪影響を及ぼし、かえって全体が損をするような結果になる。⇒協調せず利己的に行動。

イ．「チキンゲーム」とは、それぞれの人が相手の戦略に対してベストな戦略を選んだ結果として、誰もその状態から戦略を変える誘因がなくなるゲームのことをいう。⇒ナッシュ均衡

ウ．「戦略的行動」とは、自分の行動が相手にどのような影響を及ぼすのかということを読みながら、自分の行動を決めることをいう。→○

エ．ゲーム（競争）が繰り返し行われる場合、各経済主体は、裏切った場合の仕返しを恐れて、協調的な態度をとりやすくなる。→○

（5）★ア．1930年代のアメリカの大恐慌時代において、現金性向と預金準備率が急速に上昇した。その結果、ハイパワード・マネーは増えているが、マネーサプライは急速に縮小した。→○

★イ．M.フリードマンとA. J. シュワルツは、その著書のなかで、2007年から表面化したサブプライムローンが悪化した原因を金融政策の失敗と指摘している。⇒1930年代のアメリカ恐慌

★ウ．中央銀行に手形・外貨・債券などが入ればそれと同額のハイパワード・マネーが生まれる。→○

エ．マクロ経済を分析する際に用いられる貨幣量の指標としては、現金と預金の一部を足し合わせたものが使われる。貯蓄性も含めた広範囲の貨幣をM1とよぶ。⇒M2

2013年（平成25年）

（1）ア．ハイパワード・マネーは、市中銀行の貸借対照表における負債総額に等しく、したがって資産総額にも等しい。

⇒中央銀行

イ．現金性向および預金準備率が高い状況では、ハイパワード・マネーの増加はかえってマネーサプライの減少の要因になる。⇒ハイパワード・マネーの増加は常にマネーサプライを増加させる。

ウ．法定預金準備率とは、銀行が預金のうち中央銀行に準備として預けなければならない割合を指す。法定預金準備率の引き下げが行われると、信用乗数は必ず増加する。⇒信用乗数は現金性向の増減も関係する

エ．中央銀行による外貨買い介入が行われると、同額だけハイパワード・マネーが増加する。→○

（2）★ア．投資の利子弾力性が小さいほど、クラウドイング・アウト効果は大きくなる。→大きい

イ．金利を下げると為替レートが自国通貨安となり、輸出が増加することが期待される。→○

ウ．流動性の罫の下では、財政政策はほとんど意味を持たなくなる。→金利政策

エ．自然失業率とは、フィリップス曲線においてインフレ率が0%のときの失業率のことである。⇒長期的にはインフレ率によらずに一定値

（3）★ア．経済全体としての需要曲線は、その社会を構成する個々人の需要量を垂直方向に足し合わせたものになっている。⇒水平方向

★イ．消費関数をグラフに描いた時の曲線の傾きは、「1－限界消費性向」に等しい。⇒「1－限界貯蓄性向＝限界消費性向」（ $C=aY$ の a は限界消費性向）

ウ．一般に、「囚人のディレンマ」では、個々のプレイヤーの選択する行動は優越戦略と呼ばれる性質を持っている。→○

★エ．貨幣需要の利子弾力性が大きいほど、金融政策の効果は小さくなり、財政政策の効果は大きくなる。→○（利子弾力性が大きい＝利子率に敏感に反応する＝利子率の増減が小さい→金融政策の効果小さい）

（4）ア．価格弾力性の大きな供給曲線ほど、その傾きは大きくなる。⇒「弾力的＝傾きが小さい」

★イ．需要曲線と価格によって決定される需要量では、消費者余剰は最大化されており、更に追加的消費を行うことの限界的評価はその価格よりも小さい。→○

ウ．一般に、「囚人のディレンマ」は、すべての戦略の利得を加重平均するとゼロになる、ゼロサムゲームである。⇒協調により両社とも利益を得ることができるのでノンゼロサムゲーム

★エ．一般に、金利が上昇すると現金預金比率が低下するので、他の条件が一定ならば信用乗数は小さくなる。⇒大きくなる
 $(1 + \alpha) / (\alpha + \lambda)$ 分母が減少→数値は増加

（5）ア．政府が財政・金融政策で頻繁に介入するというのは、マクロ経済の安定性をかえって損ねるというのは、ケインジアンの政策観である。⇒「新古典派」

イ．ケインジアンは、政府の政策によって経済変動を小さくできるという見方に立っている。→○

ウ．新古典派の考え方は、市場万能的な色彩が強く、政府が市場をコントロールしようとしても、結局は市場を混乱させるだけというものである。→○

エ．ケインジアンの考え方は、賢明な官僚・政府によって経済のコントロールは可能であるという考え方が出ている。→○

2012年（平成24年）

（1）ア．価格に対して**非弾力的**な需要曲線とは価格が少し高くなっても**需要量の増加が少ない**曲線をいう。⇒「需要量の減少が少ない」

★イ．一般におでんの需要は気温が下がると大きくなるが、これは**需要曲線上の左上から右下への動き**として説明できる。⇒**需要曲線の右**への動き（外生変数である天候（ w ）の変化であるため、需要曲線の位置も変化する）

★ウ．個々人の需要曲線は、価格と需要量の関係を表しているだけであり、その人のその商品に対する評価を表している訳ではないことに注意する必要がある。⇒ D はその評価も表している

エ．消費者余剰とは、支払う意思はあるが支払わないですんだという意味での、需要行動を通じた消費者の利益を表したものである。→○ 利益＝満足度

（2）ア．**GDP**とは、1年間に国内で生産された財・サービスの総額を表したものであり、他の製品の原料となるようなもの（**中間財**）の**生産額も含まれる**。⇒中間財の生産額はGDPに含まれない。（付加価値の場合は含まれる？）

イ．日本のGDPには、日本国内で行われる全ての生産活動が含まれるため、日本国内の外資企業の生産活動も含まれる。→○

ウ．日本の**GNP**には、外資系企業による日本国内の生産のうち、**海外の親会社に支払われる配当や技術料などは含まれない**。→○

エ．海外に多くの資産を持っている日本では、**GNPよりもGDPの方が大きく**なる。⇒ $GNP > GDP$

（3）ア．戦略的行動とは、自分の行動が相手にどのような影響を及ぼすのかということを読みながら、自分の行動を決めることをいう。→○

イ．囚人のディレンマの場合には、その利得（ペイオフ）表によって**ゼロサムゲームになるケースと**ノンゼロサムゲームとなるケースがある。⇒囚人は常に**ノンゼロサムゲーム**

ウ．チキンゲームは両者の勝敗を決めるゲームの1種であり、**ゼロサムゲーム**の1種である。⇒**ノンゼロサムゲーム**

エ．地方には街の規模に比べて大きすぎる店舗の百貨店を目にすることがあるが、これは大きな規模が利益を最大化する適正規模であるというよりは、全国系列の大型店が新たに出店することを未然に防ぐための店舗規模といえる。→○

（4）ア．金融政策の本質は、利子率を「てこ」として、投資を刺激したり抑制したりすることにある。→○

★イ．貨幣需要の利子弾力性が小さいほど、所得が増えたときの利子率の上昇幅は大きくなり、クラウディング・アウト効果は**小さく**なる。⇒**大きく**なる（利子率が上昇すれば民間投資が減少する）

★ウ．貨幣需要の利子弾力性が小さいほど、財政政策の効果は**大きく**なる。⇒**小さく**なる

エ．流動性の罨とは、貨幣需要曲線が水平に近くなって、貨幣量が変化しても利子率の変化が小さい状況を言う。この場合、金融政策の効果は限定的になる。→○

（5）ア．代表的なマクロ経済政策の手段である財政政策には、税の調整や**金利調整**が含まれる。⇒財政政策＝税の調整、政府支出の調整

★イ．**金融緩和**が行われると利子率が下がり、それが投資や不動産投資を拡大して、景気が刺激される。しかし、そうした需要拡大は**クラウディング・アウト効果というマイナスの影響**も及ぼす。⇒金融緩和（買いオペや法定預金準備率の引き下げ）は投資の拡大による乗数効果をもたらす生産や所得が増加する

ウ．貨幣需要の利子弾力性が小さいほど、貨幣供給量の増大による利子率の低下幅は大きくなり、金融政策の効果は大きくなる。→○

エ．失業率が高いときほど**利子率**が低くなる関係をグラフ化したものをフィリップス曲線と呼ぶ。⇒**インフレ率**